

「会員短信 49」

「滑稽を世界に」

八塚一青

私にはライフワークだと自ら決め込んでいる夢があります。それは「滑稽俳句」を世界中の人達がそれぞれの言語で楽しむ形を作りたい、後世に残したいという願いです。

「滑稽俳句」と良く似た性格の文芸に「川柳」がありますが、この川柳と滑稽俳句の面白さは、日本人だけが、日本語のみで楽しむべきものでしょうか。確かに、日本の風土の中で古代より培われた日本人独特の感性によって結晶された短詩系文芸ということもあり、日本人には響きやすいという一面はあるかもしれませんが。ですが、外国の人たちにも理解してもらえる要素は必ずあると思っています。

このグローバル社会の中で「川柳」「滑稽俳句」を日本だけのものにしておくのは実にもったいない。スマホやSNSが発達し、世界中の人がつながる環境がある現代こそ、世界中で楽しめる文芸であるべきだと思っています。

「俳句」自体は、先んじて、英語俳句など国際化への動きはすでに行われています。あらゆる言語に対応できるように『三行詩』という形がとられているのは皆さん、ご存じのとおりです。私はこの状況下で「川柳」や「滑稽俳句」を「俳句」とはまた似て非なるものだと紹介するのは難儀だと考えています。そこで私自身に取り組んでいるのは『二行詩』というスタイルです。川柳に「七七」の形も古くからあることがその理由のひとつです。共感いただける方がいらっしゃれば幸いです。